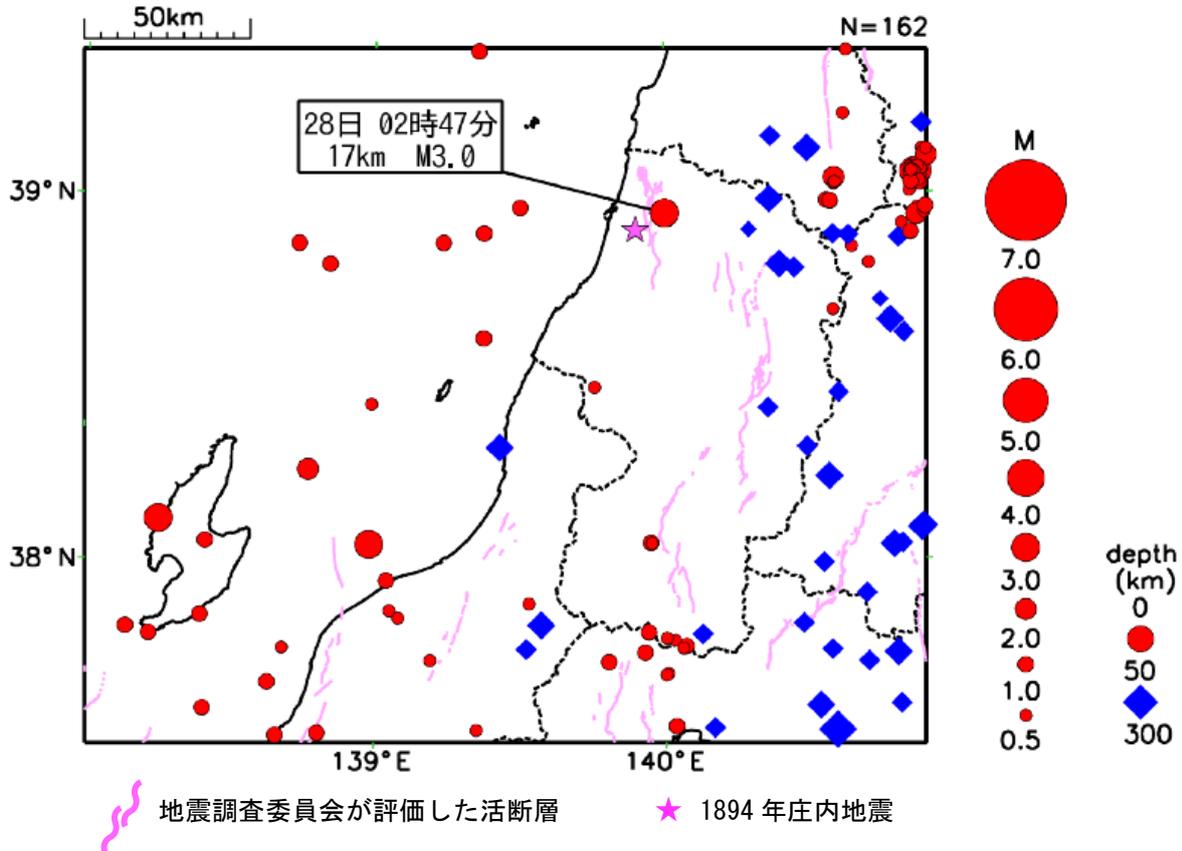


山形県月間地震概況（2025年4月）

山形地方気象台

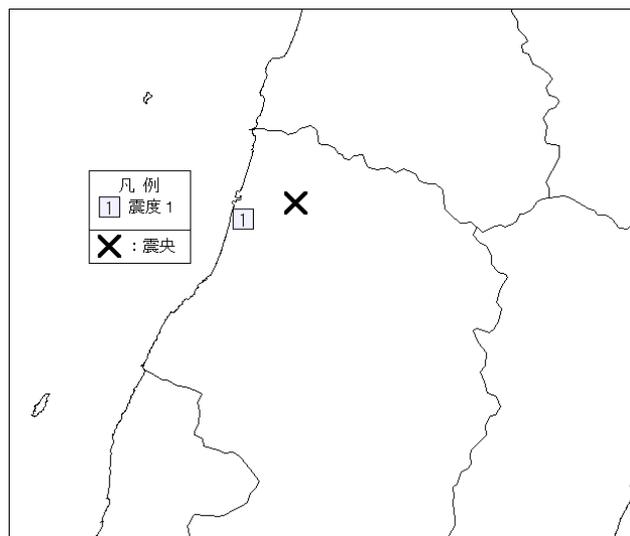
今期間(4月1日～30日)の震央分布図



【概況】

この期間、山形県とその周辺(上図の範囲内)で観測した地震は 162 回であった。また期間中に県内で震度1以上を観測した地震は1回(前期間0回)であった。

28日2時47分に庄内地方の深さ17kmでM3.0の地震が発生し、酒田市で震度1を観測した。この地震は地殻内で発生した。今回の地震の発生以降に、特に目立った地震活動は観測されていない。今回の震央付近では、1894年に庄内地震が発生しているほか、2023年9月14日にM2.7の地震(遊佐町で震度2)が、2024年6月11日にM4.0の地震(酒田市などで震度2)が発生している。

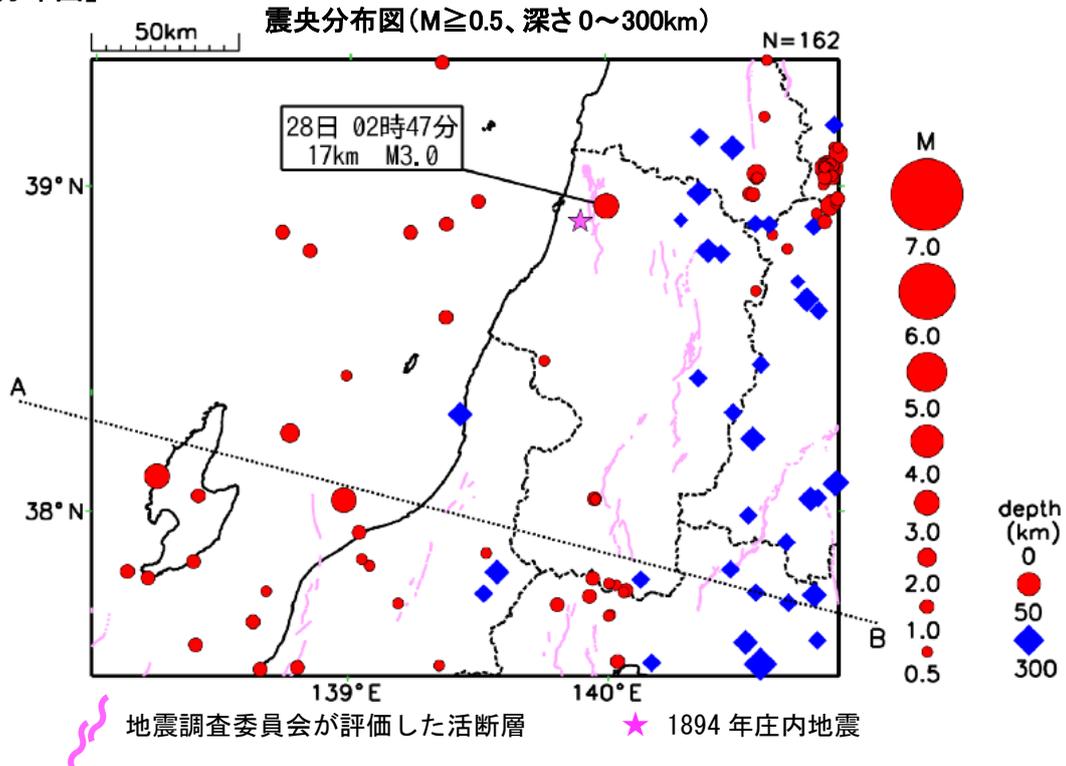


28日2時47分に庄内地方で発生した地震(M3.0)の震央(X)と市町村別震度

※本資料では、地震の規模を示すマグニチュードを「M」として表記している。

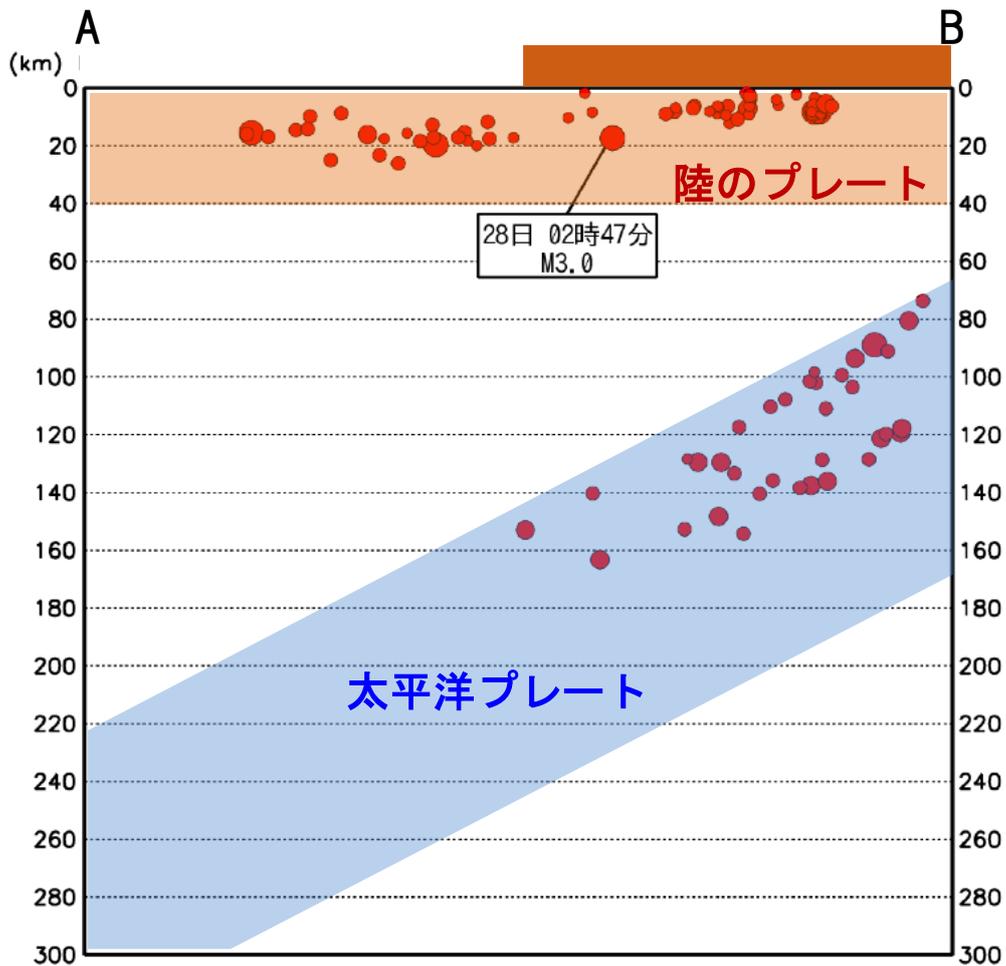
※山形県の各地の震度の詳細は、別紙「山形県で震度1以上を観測した地震の表」を参照。なお、震源要素等は、再調査により変更することがある。

【震央分布図】



【断面図】

断面図は震央分布図内の震源を直線 A-B(太平洋プレートの沈み込む方向)に投影したものである。



※太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。

※ は陸地の大まかな位置を示している。

※陸地から離れた海域ほど、震源の深さ精度は良くない。なお、沖合いの地殻内で発生する地震の震源は、実際はより浅いものが多いと考えられる。

山形県で震度 1 以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間 2025年4月1日～2025年4月30日

発震時	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
各地の震度					
2025年04月28日02時47分	山形県庄内地方	38° 56.7' N	140° 00.1' E	17km	M3.0
山形県	震度 1	：酒田市亀ヶ崎			

(注) 地震の震源要素等は、再調査により変更することがある。

各地の震度は山形県のみを示し、*は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

北海道・三陸沖後発地震注意情報 が発表されたら？

2024年8月8日、運用開始以来、初の南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表され、その後1週間日頃からの地震への備えの再確認が呼びかけられました。これは、北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表された際に呼びかけられる内容と同じものです。そこで、改めて、北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表されたらどうすればよいか確認しましょう。

北海道・三陸沖後発地震注意情報とは？

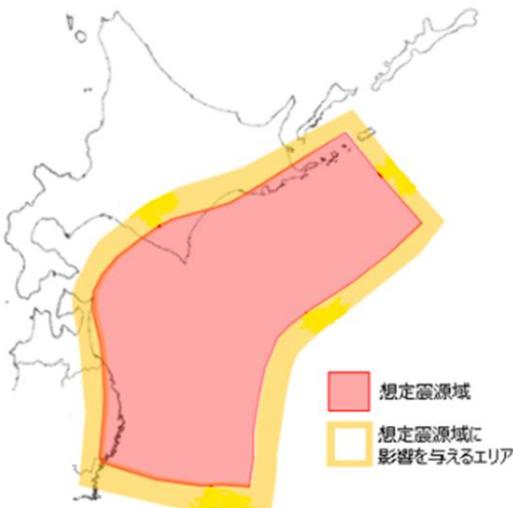


図1.巨大地震の想定震源域と想定震源域に影響を与えるエリア

日本海溝及び千島海溝沿いの領域では、大規模地震が発生すると、その地震の影響を受けて新たな巨大地震が発生する可能性が相対的に高まると考えられています。

このため、図1のような、北海道の根室沖から東北地方の三陸沖の巨大地震想定震源域及び想定震源域に影響を与える外側のエリアでMw7.0以上の地震が発生した場合に、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発表します。

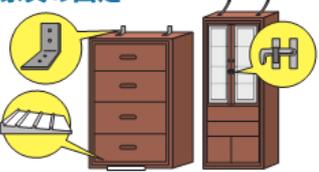
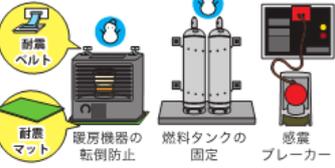
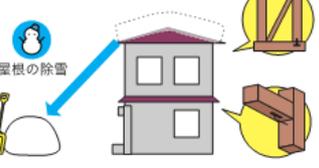
北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表されたら？

北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表されてから1週間は、通常の生活を送りつつ、日頃からの地震への備えの再確認、すぐに避難できる態勢の準備などを行いましょう。

備えの具体例としては、水や食料の備蓄、家具の固定や高い場所にある物の転倒・落下防止対策といった対策があります（図2）。備蓄などは慌てて買い出しに行くことがないように定期的に確認しましょう。また、態勢の準備の具体例としては、避難情報の確実な取得、すぐに逃げられる服装での就寝といったものがあります（図3）。

北海道・三陸沖後発地震注意情報による防災対応の呼びかけの期間は1週間としていますが、1週間が経過した後も巨大地震が発生する可能性が無くなったわけではないことには留意が必要です。また、前触れもなく巨大地震が発生する場合がありますので、突発的な巨大地震が発生した場合に備えて、日頃から地震への備えを徹底しましょう。

日頃から地震の発生に備えよう

<p>□家具の固定</p> 	<p>□非常用持ち出し袋の準備</p> 	<p>□水や食料の備蓄</p> 
<p>□避難場所や避難経路・二次避難経路の確認</p> 	<p>□出火防止対策</p> 	<p>□建物の耐震化</p> 

🐧: 特に積雪寒冷地での備え

図2.日頃からの地震への備え (リーフレット「日本海溝・千島海湖沿いの巨大地震」より)

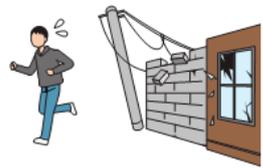
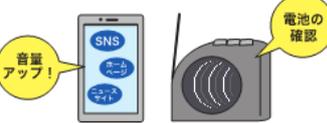
<p>地震時に迅速な避難が必要な場合</p> <p>揺れを感じたり、津波警報等が発表されたりした場合に、直ちに津波から避難できる態勢の準備</p> <p>すぐに避難できる態勢での就寝</p> <ul style="list-style-type: none"> □すぐに逃げられる服装で就寝 □子どもや高齢者等、要配慮者と同室で就寝 □室内で最も安全かつ避難しやすい部屋の使用  <p>非常持出品の常時携帯</p> <ul style="list-style-type: none"> □準備しておいた非常持出品を日中は常時携帯、就寝時は枕元に置く □身分証明書や貴重品を常時携帯 □防寒具等、積雪寒冷に備えた装備を手元に置く 	<p>地震によるリスクの高い場所がある場合</p> <p>想定されるリスクからの身の安全を確保する備え</p> <p>揺れによる倒壊への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> □先発地震で損壊した建物や崩れやすいブロック塀等にはできるだけ近づかない  <p>土砂災害等への注意</p> <ul style="list-style-type: none"> □先発地震により、土砂崩れの危険性が高まっている場所にはできるだけ近づかない □崖崩れの恐れがある家では、崖に近い部屋での就寝を控える □地震発生後の津波からの避難が困難な地域に立ち入る際は、そのようなリスクのある区域であることを意識して、いつでも避難できるようにする 	<p>後発地震に注意し、誰もが実施すべき備え</p> <p>緊急情報の取得体制の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> □携帯電話等の緊急情報を取得できる端末の音量を平時よりも上げておく □ラジオや防災行政無線の受信機等を日頃生活する空間に配置  <p>日頃からの備えの再確認</p> <ul style="list-style-type: none"> □水や食料等の備蓄の再確認 □避難場所・避難経路等の再確認 □家族との連絡手段の再確認 □家具の固定の再確認 □自治会単位での訓練等での再確認等 
---	--	--

図3.北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表されたときの防災対応 (リーフレット「日本海溝・千島海湖沿いの巨大地震」より)